

5月の目次 *Menu*

- 02 シリーズ 駅  
Vol.05 大船渡線「千厩駅」
- 03 COVER STORY  
岩渕紘八君 萩荘中3年
- 04 特集 一関コミュニティFM  
いつもそばに 明日も「あすも」
- まちなトピックス
- 14 一関駅で「デスティネーションキャンペーン」/花泉・花と泉の公園「ペゴニア館」が業務再開/大東・洪民小学校で最後の入学式/千厩本町・新町両商店街で228回目の夜市 ほか
- 市民の広場
- 16 笑顔でGOOD/キッズ写真館/ふれーふれークラブ/ウチのこ自慢/図書館だより
- 5月の健康コーナー
- 18 5月の健康情報/休日当番医/健康塾/元気のひみつ
- 5月のお知らせ
- 20 博物館だより/市営住宅など入居案内/掲示板/募集/催し/講座/相談/お知らせ
- PICK\_UP
- 26 千厩を発信するご当地ソング誕生
- 岩手一関の手
- 27 書道家 多田香邨さん
- わたしの夢
- 28 佐藤大地さん 舞川小6年

**岩手県一関市**  
Ichinoseki City

東北のほぼ中心、盛岡市と仙台市の中間にある一関市は古くから岩手県南、宮城県北エリアの中核を担ってきました。2005年9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併。11年9月26日には藤沢町と合併し、「人と人、地域と地域が結び合い、未来輝く いちのせき」を目指して確かな歩みを進めています。



■面積 1,256.25km<sup>2</sup> ■人口 127,231人 (男61,629人、女65,602人) ■世帯数 45,430戸 ■市花 なのはな ■市木 ぶな ■市鳥 うぐいす (以上2012年4月1日現在)

広報いちのせき

**I-Style**  
いちのせきスタイル

2012年5月1日号  
No.159



I-Style(いちのせきスタイル)は、岩手県一関市が発行する広報誌です。中東北の拠点都市を目指して独自のスタイルで前進する誇り高いいちのせき(Ichinoseki)のインプレッション(Impression=感動)、インテリジェンス(Intelligence=知的情報)とインフォメーション(Information=お知らせ)を伝え、古里の魅力を、価値を、エネルギーを発信する情報誌です。5月1日号の印刷経費は1部25円です。本誌は一関市のホームページでもご覧になれます。旬な情報を画面上でもお楽しみください。一関市ホームページ <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp>

**COVER STORY**

MLB開幕戦プレシーズンゲーム始球式に岩渕紘八君(萩荘中3年)が登板

萩荘中3年の岩渕紘八君。被災地で活動する野球チームの代表として3月26日、東京ドームで行われたMLB開幕戦プレシーズンゲーム(オークラウド・アスレックス対阪神タイガース)で始球式を務めた。



メジャーリーガーのミットに投げ込んだ入魂のストレートに、大観衆から大きな拍手が贈られた。「不思議と緊張しませんでした。わずかに外れ、ストライクにはならなかったが、いろいろな思いを込めて投げました。気持ちよかったです」と語る。大



役を果たしたその表情は、自信に満ちている。萩荘小3年から野球を始めた。5年からマウンドに立ち、中学入学の夏に硬式を握った。171cm、70kgの恵まれた体格を生かし、力のある速球とキレのある変化球で真っ

向から挑む。高い身体能力と抜群の運動センスは、投手兼内野手として活躍した父剛さん譲り。6年の夏には、陸上400mリレーで県を制し、全国大会に出場した脚力と瞬発力を持つ。

所属する岩手ボーイズではエースで4番。主将としてチームをまとめる。目標は、21チームがしのぎを削る東北大会を制して、東京ドームで開かれる全国中学選手権大会に出場することだ。

「今度は選手として(東京ドームの)マウンドに立ちたい」。

中学最後の夏にかける思いは、誰よりも熱い。



**千厩駅**  
Senmaya\_sta.

**お待たせしない駅**

千厩駅を訪れたのは、春の日差しが降り注ぎ始めた3月下旬。景色も日ごと春めいてきた。同駅は1927年7月に開業。かつては、18人ほどの駅員が勤務し、貨物の取り扱いもあった。70年9月に駅舎が改築され、現在の姿になった。

2010年6月から駅長を務める皆川正助さん(61)が今回の案内人。「当駅の自慢は、お客さまをお待たせしないこと。JRなら全国どここの切符でも買えるんですよ」と胸を張る。1日の平均乗車人員は288人(2010年統計)。利用者は年々減少傾向にあったが、震災後は少し増えた。仮設住宅に住む人や被災地へ向

かうボランティアに利用してもらっているという。沿岸被災地の支援に一役買っている駅でもある。一方で、「2011年春からこの駅で一緒に勤務することになっていた同僚が、震災で帰らぬ人に。残念です」と皆川駅長は表情を曇らせる。

震災から1年あまり。ゆるやかにカーブした島式ホーム(※1)に滑り込むキハ(※2)と行き交う人々の表情は皆、穏やかに見えた。暖かい陽光が差し込む待合室は明るく、地元の人が生けた季節の花が乗降客を迎える。千厩駅を出ると上り列車は一路北へ。摺沢駅に向かう。

ホームが緩やかにカーブする駅



①:摺沢へ向かう車窓から。千厩の街を後にする  
②:大きく弧を描く線路。その線形を竜に見立てて「ドラゴンレール大船渡線」の愛称が付けられた

案内人

皆川正助さん 千厩駅駅長



子供の頃に見た蒸気機関車をよく覚えています。「旅」や「物流」を支える国鉄の力強さにあこがれ鉄道マンに。モットーは「安全の先に信頼がある」。

※1…両側に線路に接しているホームのこと  
※2…キハ100型。大船渡線、北上線などで使用されている